

AOKUSA-NO-HARA ANNUAL REPORT

2024 - 2025

団体概要

一般社団法人 青草の原

代表理事：藤田琴子（社会福祉士・保育士）

理事：白木朋子（認定 NPO 法人 ACE 副代表）、竹澤汀（アーティスト）、尾形銅樹（PdM）

住所：〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-3-13 西新宿水間ビル 2F

※登記住所のため、郵便物の郵送先はお問い合わせください。

設立：2021 年 12 月 15 日

●声のシェア箱（アンケート）

青草の原の活動に触れてのご感想など、ぜひお寄せください。

アンケート回答は
こちらから



「あなたでアルこと ともにイルこと」

をめぐる6つの実験

「あなたでアルこと ともにイルこと」は、

簡単なようで、とてもむずかしい。

社会のなかで、私たちはいつのまにか役割や立場に分けられ、出会うことも、関わることも選べてしまう。

それでも、違う誰かと出会い、わからなさがあるままに

隣にいるときにも生まれるあたたかさがある。

だからこそ、れもんハウスでは、一人ひとりのなかに

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」を育むために、

場と関係のかたちを試しつつけてきました。

それは不確かだけれど大切なことを求め、確かめる営み。

実験とも言えるこのプロセスに価値があると信じています。

この4年間で、大きく分けて6つの実験が生まれました。

「こんなことができるかもしれない」「こうしたらいいかもしれない」

そう試行錯誤しながら、いろんな人々とともに、

言葉になりきらないこと、数では測れないことに取り組んでいます。

そして今、そのなかで感じた「アルイル」の豊かさを、

それぞれの暮らしや現場へと

つないでいこうとする人たちとの出会いも起きています。

ともに求め、悩みながらも、そこに生まれるやりとりこそが

“アルイル”を大切にす文化を育てていくのだと思います。

この大都会の小さな家からはじまった6つの実験。

今出会ったあなたも、ぜひ一緒に。

家族と
暮らし
を
つなぐ
実験

誰かと暮らしを分け合うなかで、「かぞく」のかたちをゆるやかに問い直し、助かり合うあり方を探っています。そこで見てきた新しい「かぞく」の風景を社会に届けています。

- れもん留学（子どもショートステイなど・制度以外のお泊まり）
- 子どもショートステイ啓発
- 住まい開き（住人）



場と関係をつくる実験

れもんハウスを拠点に、誰かの「やってみたい」が場となり、出会いや関わりが生まれていきます。そのような時をともにするなかで、それぞれの「大丈夫」を育てていこうとしています。

- 個性豊かなイルひとの時間
 - 図書室と部室
 - やってみる企画
 - マザリナれもん
- アルイル出会う旅
- 急にはじまるごはん会

語りともなびといく実験

青草の原の実践を社会にひらき、語り、まなび合う機会をつくっています。対話や発信を通して、“アルイル”の探求の輪を広げようとしています。

- アルイル × ハブ研究会
- 発信ポリシー
- 研修開催
- 見学受け入れ
- イベント等登壇
- れもんスプリングクラス

自分や他者の感情や感覚に

丁寧に耳をすませながら、ご自愛やケアを日々の生活のなかに取り戻す。

そのなかでの安心も葛藤も分かち合いながら

心の土台を耕しています。

- セルフケアの学び
- カウンセリング等の補助
- ケースワーク
- 関わりの振り返り
- 支援者支援

ケア
を
分かち
合う
実験

まちに広げる実験

れもんハウスの実践を地域にひろげ、地域の人や団体と日常的につながり、困ったときに頼り合える関係やネットワークをつくっています。日々の交流から地域の安心をはぐくむ試みです。

- ご近所ごはん会開催
- 近隣中学校との連携（地域協働学校運営委員会参加など）
- 新宿子育てメッセ実行委員

循環のしくみをつくる実験

青草の原の営みを支える仕組みを、関わる人とともに育てています。

お金や思いがめぐり、対話とつながりが続いていく運営のあり方を探っています。

- 寄付のしくみ（れもんバー・31匹のひつじプロジェクト・ひつじ会）

2024 年度 活動計算書

(2024 年 8 月 1 日から 2025 年 7 月 31 日まで)

(単位：円)

	2023 年度	2024 年度	増減
経常収益	売上高	0	64,572
	受取寄付金	11,385,207	13,978,649
	受取助成金	3,498,000	3,212,000
	賃貸収入	780,000	440,000
	イベント収入	769,910	450,850
	一時保護委託収入	571,844	0
	ショートステイ収入	0	1,639,455
	その他収入	505,901	950,478
	計	17,510,862	20,736,004
経常費用	売上原価	0	50,035
	人件費	3,451,352	6,017,215
	法定福利費	487,524	1,221,616
	旅費交通費	1,089,553	932,422
	通信費	348,253	382,655
	消耗品費	364,562	294,332
	修繕費	127,518	880,588
	水道光熱費	182,391	380,723
	支払手数料	235,218	307,435
	支払報酬料	1,245,150	3,709,172
	賃借料	2,659,800	2,738,340
	研修費	236,403	853,279
	交流食費	1,118,095	1,369,965
	その他費用	143,223	246,284
	計	11,689,042	19,384,061
当期経常増減額		5,821,820	1,351,943
経常外収益		679	13,385
経常外費用		0	0
当期経常外増減額		679	13,385
税引前当期正味財産増減額		5,822,499	1,365,328
法人税、住民税及び事業税		70,000	93,300
税引後当期正味財産増減額		5,752,499	1,272,028
前期繰越正味財産額		3,987,941	9,740,440
次期繰越正味財産額		9,740,440	11,012,468
			1,272,028

- 1 今年度よりグッズ販売を開始したため、売上高と売上原価が発生しました。
- 2 寄付者数の増加や大口の寄付等により増収となりました。寄付をいただいたことで、人員拡充の見通しを立てることができました。
- 3 5 件の助成金をいただき、若者支援や中高生の居場所作り事業等をより活発に行うことができました。2025 年度使用分については、次年度の前受金としています。
- 4 2024 年 4 月より新宿区ショートステイ受け入れの事業を「収益事業」として開始し、税務申告をいたしました。今年度のショートステイ事業は支出が収入を上回ったため 16 ヶ月分の均等割り納税のみとなりました。
- 5 増収にあたり、フルタイムスタッフや業務委託として関わる人が増えたため、人件費・支払報酬料の増額となりました。
- 6 風呂場の修繕をしたため、修繕費の増額となりました。
- 7 れもんハウスに関わる人に対する研修・合宿の機会が増えたため、研修費の増額となりました。

団体ビジョン

それぞれが、自分として大切にされ、愛され、安心できる場。

生きるために必要な栄養と休息を得られる場。

そんな場と関係をつくっていくこと、広げていくことを目指しています。

助成金

4 期目は以下の助成金を交付していただきました。

- ・積水ハウスマッチングプログラム（積水ハウス株式会社）
- ・感動体験支援基金（公益財団法人パブリックリソース財団）
- ・SVP 東京との協働（NPO 法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京）
- ・若者おうえん基金（公益財団法人ユニバーサル志縁センター）
- ・子ども・子育て支援助成第 3 回（生活協同組合コープみらい / 社会福祉法人 中央共同募金会）
- ・こどもの未来応援基金（独立行政法人福祉医療機構）
- ・活動助成金（国内事業）（公益財団法人ウェスレー財団）

加盟団体

新公益連盟 / ひびらぼ / 社会的養育地域支援ネットワーク

ご寄付

「ひつじ会」への参加（マンスリーでのご寄付）／スポットでのご寄付

青草の原の活動の多くは寄付によって支えられています。

寄付というかたちで、「あなたでアルこと」とともにイルこと」をつくるひとりになっていただけたら幸いです。

※毎月報告メールをお送りします。

※マンスリーメンバーは 3 ヶ月毎のオンラインサロンにご招待します。

オンライン決済はこちら



ホームページからお手続き可能です。詳しくは公式サイトのご寄付ページをご覧ください。

<https://aokusa.or.jp/#donate>

お振り込みはこちら

PayPay 銀行

支店名 | ビジネス営業部 店番号 | 005
預金種目 | 普通預金 口座番号 | 5876802
口座名義名 | (シャ) アオクサノハラ

古本チャリティ募金

古本の査定額が青草の原への寄付になります。詳しくはサイトへ。



ほしいものリスト

青草の原で必要としているもののリストです。リンク先からお贈りいただけます。



青草の原のものがたり

青草の原がこの4年間でどのようなあゆみを進めてきたのか、振り返ってみました。
出会いのなかで何かが生まれたり、変容したりと、有機的なうごめきが続き続けています。
そこにはたくさんの愉快な人たちの関与がありました。

不完全でも、いいわ☆

4期：共に耕し、芽を託す

取り組みが広がるなかで常勤職員を雇用し、他にも責任を持って活動を支え動かすメンバーも増えました。ファンドレンジャーズ(資金調達チーム)も結成!三代目住人は「とまろー」に。それぞれが大切にしたい種を持ち寄り、青草の原の活動のなかで育み、収穫をして、お裾分けしていく、そんなチームが多層的にできている感じがします。旅は年間計画を立てて実施したり、研究会はゼミ形式を導入し、中高生メインの“図書室と部室”という時間を定期的に開くようになったりしました。れもんハウスでの珍しいショートステイの受け入れ方について講演させていただく機会も増え、地域にある”既存の居場所”でのショートステイ受け入れの推進のためにも動いています。

5期：ランタンを手渡して

さあ、ここから、どこにどう進んでいくのでしょうか。青草の原の営みのなかで出てくる一人ひとりの多様で複雑な小さなストーリー。灯台のように、広く照らすことはできないけれど、つながった人たち一人ひとりがランタンを持って灯していけば、きっと辺りはじんわりと明るくなる。そんなランタンと一緒に灯す仲間を増やしていきたいです。

3期：まちへ目を向けて

よくいるTさんの飲み友「とら」と「まーく」が二代目の住人に。その頃れもんハウスでは、地域にこの取り組みをどう広げていくかの話があり、近隣の中学校との連携、地域の子どものショートステイや一時保護委託でのお預かり、地域イベントへの参加などを通して、れもんハウスを訪れる地域の人が増えてきました。いざという時に助けてが言える人や場所の選択肢を増やそうと、ご近所ごはん会もスタート。れもん果汁を飛ばしていこうとスプリングラズ(広報チーム)も結成!

1期：エモを愛でる日々

拠点の運営をきっかけに、青草の原を設立。代表や住人の繋がりでも色々な人がごはんを食べにきたり、おしゃべりにきたりする日々。若者が休職中に修行に來たり、死のうとする手前で家出てきたりと、様々な理由で泊まりにくるので、そのようなお泊まりのことを「れもん留学」と呼ぶようになりました。ショートステイの受け入れも始まり、複数の大人が協力して子どもと暮らすかたちことができました。偶発的な出会いの重なりで生まれる「よかったね」の出来事を「エモだね〜」と愛でる光景がよくありました。

0期：出会った時がはじまり

2021年9月。代表が西新宿の売り物件を見つけ、奇跡的な繋がりです「Live Quality 大家さん」に購入していただいた上で11月から賃貸借契約開始。その時に住まい開きできる家を探していた(一社)We are Buddiesの愛梨・綾夏が、2階に住んで一緒に場づくりをしていくことに。れもんハウスの名前は、「誰のための場所」とならないように意味のない名前にしようと、その時に食べていた綾夏手作りの“鶏肉のレモン煮”が由来です。

2期：カオスからの編み直し

人が人を呼び、とにかくやりたいことを気の赴くままにやっていたら、住人の安心が担保できないくらいのカオスな状況になっていきました。急いで役割や体制の見直し、「イルひと」の登録制を導入。場を開く人を明確にし、定期的に対話の時間を持つようになりました。代表が本職をパートに切り替え、活動に集中するようになり、「アルイル×ハブ研究会」や「アルイル出会う旅」が始まりました。活動費も必要となり、31匹のひつじプロジェクトの構想やれもんバーも生まれました。

【注釈】

住人:れもんハウスの2階の部屋には住人が家賃を払って住んでいます。
アルイル×ハブ研究会:「ハブ」として生きることを目指す人たちが共に学び合う時間。
アルイル出会う旅:れもんハウス以外にもあなたとして生きられる場所はあると実感できる場や人に出会いに行く旅。
れもんバー:月一れもんハウスで行われる完全招待制のバー。月替わり店長によって雰囲気変わり、多様な背景の人と出会えるチャリティイベント。
ご近所ごはん会:ご近所さんが集まるごはん会。毎月れもんハウスだけでなく、近所の方の家やシェアハウスで同時開催。
ショートステイ:子どもショートステイは、保護者が入院や出張、育児疲れなどで子どもの養育が難しいときに、泊まりで子どもを預かり、親子の日常を繋いでいくための制度。

4期の一年
2024年8月
〜
2025年7月



【れもんハウス見学】
受け入れ回数28回
140名以上
こども家庭庁、自治体職員、
大学ゼミ、子育て支援団体、
若者支援団体など

【講演活動】
登壇数17回
参加者数1,000名以上
認定NPO法人Learning for All、
日本子ども虐待防止学会、
東京藝術大学、西武信用金庫など

【メディア掲載】
・2024年8月23日朝日新聞
「家族をひやすみ」
・2024年12月6日ニッポンオンライン
「西武信金、協創サロンを開催 福祉・介護団体が交流」
・2025年3月こども支援ナビMeetup
「泊まれるみんなの家「れもんハウス」で、地域のセーフティネットをつくる」

【ショートステイ受け入れ実績】
子どもショートステイ
利用人数 22人
利用泊数 47泊

トワイライトステイ(夜22時までの預かり)
25日(3人)
親子ショートステイ利用泊数
3泊(2世帯)

【れもん留学受け入れ実績(子どもショートステイ除く)】
幼児 2人
小学生 21人
中高生 9人
18-21歳 30人
22-29歳 33人
30代 21人
40代以上 6人
累計:216泊(121人)



note